

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和5年12月12日

協議会名:高松市離島航路確保維持改善協議会

評価対象事業名:離島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
雌雄島海運株式会社	<p>男木～高松航路</p> <p><陸上交通との連携状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松港周辺には、各公共交通機関の結節拠点が多く存在するが、分散している状況。 ・最寄りの鉄道駅及びバス停(JR高松駅・ことでん高松築港駅・高松駅(バス)、徒歩5分以内)との乗継ぎ時間は多様なモードがあるが比較的短い。 ・フェリー乗り場に、高松空港と高松港を結ぶリムジンバスのバス停が設置されている。 ・女木島では、船便の到着に合わせて鬼ヶ島洞窟行定期バスが運行している。 ・ICカードでの割引範囲を一部の航路・鉄道・バス等で利用できるようにし、利便性の確保に取り組んでいる。 	<p><前回の評価結果の概要></p> <p>利用者数については、目標を達成出来なかったが、車両輸送は目標を上回る結果となった。</p> <p>今後は、コロナ収束後を見据えた反転攻勢策の計画・準備等、経営改善につながる取り組みを期待する。</p> <p><評価結果の反映状況></p> <p>利用客の誘致につなげるべく「御船印プロジェクト」に参加。男木港・女木港の各切符売場において「めおん」・「めおん2」2種類の御船印を販売開始することで、公共交通の利用促進や観光需要の喚起に取り組んだ。</p> <p>また、航路の維持と利便性の確保につながる施策・事業(高齢者割引の適用及び島発往復割引の拡大)を継続して実施した。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	<p>【目標達成率】97.9%(目標:245,821人/年)</p> <p>【利用者数】240,720.0人/年(対前年比:94.1%)(対前々年比:136.1%)</p> <p>【収支率】55.9%(対前年比:▲31.1%)(対前々年比:▲9.5%)</p> <p>【1便あたり利用者数】104.8人</p> <p>瀬戸内国際芸術祭の開催により、回を追うごとに増加していた利用者数が、今年度(2022秋会期)はインバウンドの大幅な減少などによって伸び悩んだことが影響し、目標を達成できなかった。</p>	関係機関とも十分に協議しながら、航路の維持と利便性の確保につながる施策・事業に取り組む。

事業実施と生活交通確保維持改善計画(又は地域公共交通計画)との関連について

令和5年12月12日

協議会名:	高松市離島航路確保維持改善協議会
評価対象事業名:	離島航路運営費等補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>高松市は香川県を中心部に位置し、面積は375.67km²、人口は419,912人(R5.12.1現在)である。高松港と女木島、男木島を結ぶ離島航路(男木～高松航路)は、唯一の定期航路であり、両島の住民にとっては、通院、通学を始め、日常生活の全般において、本航路の利用が不可欠となっている。そのような中、新型コロナウイルス感染症の影響による観光客の大幅な落ち込みがあったが、瀬戸内国際芸術祭等のイベントの開催や、地域住民、航路事業者及び行政の連携による航路維持活性化施策により、利用者数は増加傾向で推移している。他方で、両島の人口は年々減少傾向が続いていることから、引き続き、航路事業者が単独で航路を維持をしていくことは困難であるため、公的支援が必要な状況である。</p>